



第 19 回ちば Basic and Clinical Research Conference が開催されました

千葉大学医学部では令和 8 年 1 月 29 日に、あのはな記念講堂において第 19 回ちば BCRC が開催されました。参加者は学生 371 名、教員・来賓等 21 名でした。

ちば BCRC は「千葉大学の医学研究」の側面を学生と教員とで共有する会です。医学部スカラーシッププログラム（研究室配属）で得られた成果を発表する学生発表セッションと、先生がたの研究・キャリア紹介の講演で構成されています。また、会の企画・運営には 17 名の有志の学生事務局員が取り組みました。初めに、6 題の学生発表が学生座長の司会のもと行われました。研究の実践の深さばかりでなく「プレゼンテーション」という面でも大変力がそそがれていました。いずれも見事な発表でした。その中から 2 名の最優秀賞が選出されました。

研究室紹介は、機能形態学 山口淳教授、脳神経外科学 樋口佳則教授の講演でした。お二人とも脳神経の生理・病態病態と治法開発に至る研究プロセスを大変わかりやすく紹介してくださいました。また医学生が参加した研究実績を含んだ講座の今まで・今後の展望にまで言及する魅力的なお話でした。

続いて本橋新一郎教授より心のこもったご講評を頂き、スカラーシップ奨励賞（学生 18 名）、指導者賞（指導教員等 16 名）・千葉医学会奨励賞（2 名）の授与が執り行われました。吉原俊雄あのはな同窓会長からはあのはな同窓会長賞 6 名の表彰をいただきました。また、3 年次のポスター発表の中から 2 名にスカラーシップ優秀ポスター賞が授与されました。受賞者は年々多くなり、医学研究を実践できる環境が整いつつあること、受け入れる先生がたのお力の偉大さを実感します。

最後に細胞分子医学 古関明彦教授の特別講演が執り行われました。免疫学、発生学と複数の分野に関わる研究の発展とその貢献を伺いました。キャリアを発展・継続させていくヒントが多く含まれ、学生は強い感銘を受けました。

引き続き行われた情報交換会も盛況で、研究・学生生活・将来に関して多くを語り合える一日になりました。

（文責：坂本）



スカラーシップ奨励賞の授賞式



あのはな同窓会長賞の授賞式



古関明彦教授の特別講演